

たか みや か ほ
高宮 佳歩さん奈良建設
株式会社

PROFILE

奈良県生まれ。京都精華大学 デザイン学部 建築学科を卒業。2022年、奈良建設株式会社へ入社。趣味は読書・食べ歩き。

抜擢! 20代で現場代理人となる。さらに経験則を増やし、インフラを支えたい

担当工事の概要

発注者：国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所
工事名称：奈良国道事務所橋梁補修工事
施工場所：奈良県奈良市杏町（国道24号）他
工 期：2025年4月1日～2026年2月28日
施 工 者：奈良建設株式会社

八条高架橋の下にて、
施工管理を行う

生活基盤を支える建設業の一員に

「平気で車道を歩いてるよ、私!」。補修のため交通規制された国道高架橋を夜間に1～2kmも歩き、工事の状況を写真に撮る。初任地で、橋桁の継ぎ目にある伸縮装置や、橋桁と橋脚の間に設置する支承(ししょう)の取り換えを経験した。足場を組んで橋脚に登り、見たことのない風景に触れて、橋梁細部の構造や仕組みを知りワクワクした。

大学で橋梁について学んだが、まだまだ知らないことが多く世界が広がった。普段の暮らしのなかでは、道路や橋は通ることができて当たり前だが、この補強・補修工事を通して、自分の生活はインフラに支えられているのだと再認識した。そのインフラを支えているのが建設業であり、ゼネコンの一員となった自分に誇りと喜びを感じたという。

入社前、建設業界に抱いていたイメージは「長時間労働」だったが、公共工事の現場に配属され、当初から4週8閉所が実施されていた。年齢の離れた技能者と仕事をする機会が多く、なかには気難しい人もいたが、「わからないので助けてください」と、彼らの胸を借りて教えてもらった。最初は何も知らなくて当たり前。素直に尋ねて多くを学ぶのが成長の近道だと考えた。「おい、また質問か」と言いながらも必ず助けてくれる、そんな業界だと感じており「正直、あまり苦労はなかった」と屈託ない。

2025年2月、二級土木施工管理技士の資格を取得した。試験勉強は仕事の待機中、電車での通勤中などスキマ時間をうまく使って、スマートフォンで取り組んだ。その合格発表後まもなく、現場代理人に指名された。



デスクワークに取り組む

準備を重ね、食らい付いていく

現在は、奈良国道管内の橋梁補修工事を担当する。作業は夜間のみだが、「昼・夜の生活リズムを逆転させれば問題ありません。友人たちとは、互いの生活時間が重なる部分で食事を楽しんだりしています」。

現場代理人として所長と共に、発注者や協力会社との会議に参加する機会が増えた。力不足、知識不足を感じて、全ての設計図書を読み込み、仕様書も十分に把握するなど準備を徹底した。そして施工方法について考え、提案する機会も増えた。例えば「断面修復、ウキが多いので広めに取って補修しませんか」と述べ採用されるなど、少しずつ現場への影響力が増している。

上司は「物おじせず、発注者や検査官にも自分の意見を伝えている。大阪支店初の女性所長となるよう期待しています」とのこと。道路などインフラの耐用期限が一斉に迫り、補修工事の重要度が増していることから、彼女自身、これまでの経験を大切に思う一方で「今後は造成工事や土工事などにも携わり、土木技術者としての幅を広げたい」。資格試験の勉強を通して、そんな意欲が育まれた。過去から得た経験則を後進に伝えられる人材になることを目指している。



夜間の道路補強・補修作業



【建設業界をめざす若者へ】

わからないことを素直に尋ね、感謝を述べることでできる人が、この業界に向いています。学生時代には、有名建築の図面模写などを通しCAD操作を経験しておくといいですね。

たか みや か ほ
高宮 佳歩さん奈良建設
株式会社

PROFILE

神戸市生まれ。京都大学 工学部 建築学科を卒業。2021年、佐藤工業株式会社へ入社。趣味はドライブ・ゴルフ等。

マルチタスク処理能力を習得。そして周囲とウィン×ウインの関係を築く!

担当工事の概要

発注者：地方共同法人 日本下水道事業団
工事名称：兵庫東流域下水汚泥広域処理場汚泥処理施設改築工事
施工場所：兵庫県尼崎市平左衛門町65-10
工 期：2021年10月5日～2027年12月28日
施 工 者：神鋼環境ソリューション・メタウォーター・日鉄エンジニアリング・三菱電機・佐藤工業特定建設共同企業体

現場の処理場で
ドローンを飛ばす

自分次第でどんどん成長できる職場

約6万㎡の広い敷地で、土木・建築の枠を越えた大型工事が展開する。完成すれば、下水汚泥処理施設の省エネ化や、汚泥のエネルギー有効活用などが進み、カーボンニュートラルの実現に貢献する。ここに、2021年末、準備工事の段階で配属された。敬愛する上司が所長を務める現場であり「うれしかった」。

しかし、大学在学中・就職後も触れずに過ごしたITソフト類を、一気に業務上で実践。施工計画書・申請書類・資料用のWord・Excel・PowerPoint、そしてDOCUWORKSやPDF-Xchange、さらに仮設計画図を作るJw・Ares cad。一度だけ、「無理っす」と所長に泣きごとももらしたが、程なく内容はもちろん、色彩・書体など意匠面でもアピールする資料を作成できるようになった。ドローン撮影を用いたプレゼン資料や、音声付きの動画作成へと、技術は高度化している。「君ならできる」という上司の信頼が、結果につながった。

やがて、下水処理の過程で発生する下水汚泥から石炭の代替となる燃料を生成する設備を設置する固形燃料化施設の躯体工事・鉄骨建て方が始まり、複雑な重機配置・搬入動線計画・資材ヤードの利用計画を一任された。どれか1つでも成立しなければ、作業不能に陥るというプレッシャーがあった。1か月分の日めくり絵工程(作業の配置図)を図面上に手描きし、入場する全協力会社に指示した。

「段取り帳」にタスクを描き出し、優先順位をつけてこなす日々。業務の幅・量ともに大きく「マルチタスク能力が必要です。つまり、やる気次第で知識・技術の領域がどんどん広がり、自ら成長できる職場です」。今では、支店の上司から「まだ5年生だったな」と勘違いされるほどの落ち着きぶりを見せる。



笑顔で所長(右)と共に取材を受ける

コミュニケーションから多くを得る

「ゲンちゃん」と親しみを込めて呼ぶ作業員さんがいる。彼らとのコミュニケーションで大切なのは、それぞれの個性を理解し愛情を持って接すること、職長・ナンバー2といったキーパーソンを見分ける力、互いにウィン×ウインとなる段取りを組むことだと考えている。こちらのミスで手戻りが起れば素直に謝り、逆に伝えるべき指導はしっかりと伝える。そんなやりとりの中で信頼関係が育まれていく。

特定建設共同企業体の他社(プラントエンジニアリング)や、社内の土木分野との調整が日常的に不可欠だ。どの場面でも心掛けているのは、やはりウィン×ウインの関係性。昨年から、後輩の育成も担うようになった。応援人員としてやってきた新入社員について、「僕の下につけてもらえれば、必ず育てます」と上司に宣言。現場にとどめて指導にあたり、能力を伸ばしている。

所長は「資格の取得が課題。今年中に施工管理技士、来年に一級建築士を取る」と計画する。本人も「資格試験を通して知識を増やし、判断基準の精度を上げて、将来的には現場所長を目指したい」と意気込んでいる。



作業員さん(左)と、育成中の後輩(右)に指示



【建設業界をめざす若者へ】

コミュニケーションを取るのが好きな人に適した職場です。遊ぶときは遊び、勉強するときは勉強してメリハリのある学生生活を! 現場勤務でも10連休ほど取れるので、旅行などをして楽しんでいます。